

憶念黒田武志前理事長

第十回生 嘉木揚 凱朝

(中国社会科学院世界宗教研究所研究員〔教授〕)

南無本師釋迦牟尼佛

この度、横浜善光寺留学僧育英会設立第三十三回目を迎えることをお祝いを申し上げます。思えば、この娑婆世界に前理事長黒田武志大和尚様のような、菩提心を持つて慈悲で「乗願再来」したことが人々の光栄です。こうして聖なる社会へ貢献されたと考えられます。黒田武志大和尚様は、お浄土に往生された数年になり、私にとって黒田武志大和尚様のおすがたが、永遠に離れることがなかつたです。私は北京にいるが、心は既に日本に行き、皆様とご一緒です。実際、日本に赴いて諸先生や関係の皆様とご一緒に黒田武志大和尚様の恩徳についてお話したいと思います。すぐに参上してお焼香をさせていただくべきところですが、なにぶん遠隔の外国（中国北京）に居りますことゆえ、それも叶いませず、心苦しく申し訳なく思います。横浜善光寺留学僧育英会ならびにご寺院の皆様、壇信徒の皆様方に挨拶と感謝申し上げます。

私は恩師前田惠學先生に次のように教わりました。「この世に日没があるのは日の出があるからである。始めがあれば必ず終わりがある。この世のことは一回限りと考えることもあるが、歴史はくり返すということもある。一神教のように一度地獄に堕ちたら、這い上がるべきがないというのは恐ろしい。地獄に堕ちても罪の償ないが終われば、また救いの道があると説く仏教の教えは温かい。仏教は終わりが来てもそれでおしまいとは考えない。また次の始まりが来る。そこには絶望はない。」と。仏教で説く「慈悲喜捨」の精神と一切衆生に救済のチャンス機会を与えることを黒田武志大和尚様が実践したと確信しております。だれでもねばり強く精進し善業をすれば、成功することができると考えております。

横浜善光寺の留学僧育英会（黒田武志理事長）の奨学金を頂き、一九九三年から日本の愛知学院大学に留学、二〇〇一年愛知学院大学院にて博士（文学）学位取得し、二〇〇二年中国社会科学院世界宗教研究所に就任、同朋大学仏教文化研究所客員所員。現在、中国社会科学院世界宗教研究所研究員（教授）。博士学位論文は『モンゴル仏教の研究』二〇〇四年に法蔵館で出版し、私は多年にわたった日本の研究機関に掲載されたモンゴルにおける浄土関係論文を『モンゴルにおける浄土思想』として法蔵館（二〇一六年三月）で出版されました。帰国してから『中国蒙古族地区仏教文化』（中国民族出版社、二〇〇七年）、『内蒙古仏教与寺院教育』（中国社会

科学出版社、二〇一三年）、『藏漢蒙仏教日誦』（中国民族出版社、二〇〇〇年）、『藏漢蒙対照無上瑜伽部大威徳金剛十三尊成就儀軌』（民族出版社、二〇〇七年）など多数があります。

これもひとえに黒田武志大和尚様を始め、皆様のご理解とご支援の賜であると存じます。

黒田武志大和尚様の一生は、「知行合一」でした。修学一体、報恩感謝の理想をもって釈尊のように仏陀の道を実践された偉大な人生でした。日本仏教界、あるいは世界仏教界の発展に大いに貢献され、世界的に多くの仏教研究者を養成するために貢献されました。

黒田武志大和尚様の高尚な恩徳の修養と深厚的な実践された菩薩行は、永遠に後学の人たちの基準となり、大和尚様の恩徳と有り様は、永遠に人々を照らし続けます。

黒田武志大和尚様を始め横浜善光寺の留学僧育英会の尽力で多くの外国人留学僧や研究者は、来日し、また多くの日本人留学僧や研究者が、海外に趣いて国際的な仏教文化交流などを深広にすることができました。黒田武志大和尚様の慈悲喜捨であった菩薩行のご活躍は、世界平和の向上に大いに貢献をされたものでした。

私も黒田武志大和尚様の慈悲喜捨の菩薩行を受け継いで研究生生活に精進して行きたいと決意する次第です。

これからも知恩・報恩・感謝の心で、世界平和と人類文明向上のために精進し貢献し送らせ

て頂く所存です。

今後とも何卒ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

合掌

二〇一七年五月六日

